

京都大学大学院 工学研究科 附属桂インテックセンター

外乱の不確定性を考慮したロバスト設計法の構築

プロジェクト代表: 荒木 慶一 (建築学専攻)

本研究プロジェクトの目的と主要構成員

研究目的

- (1) 実験による
- (2) 耐力劣化部材の補強・補修効果
- (3) 高層骨組構造の下層部変形現象抑止
- (4) 立体骨組構造の崩壊解析・耐荷性能安全率評価

主要構成員

荒木慶一: 京都大学工学研究科・准教授
伊藤拓海: 東京理科大学工学部・准教授

平成28年度の研究活動及び主な成果

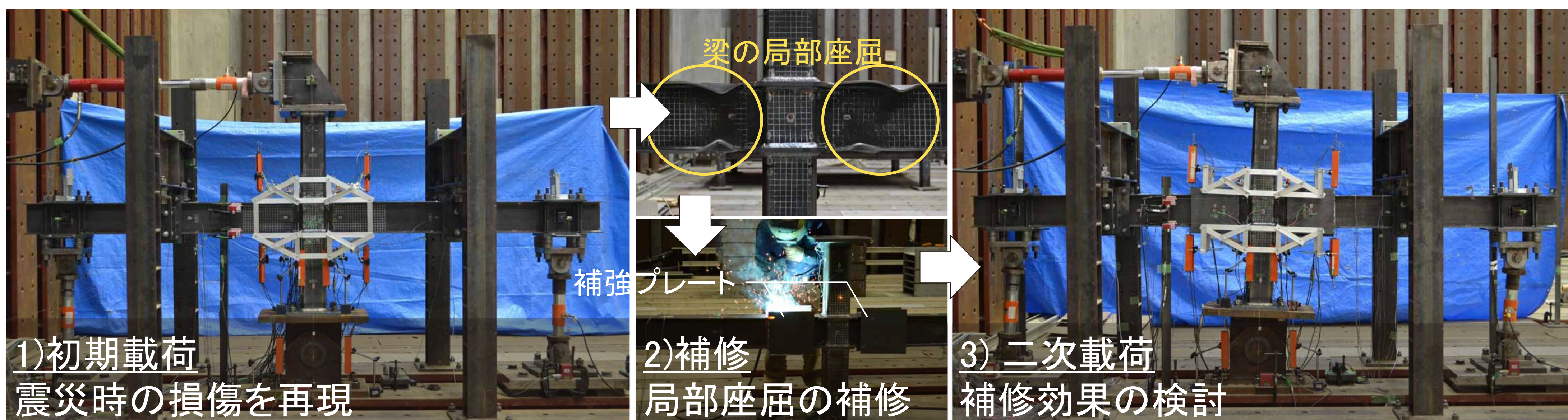
研究目的

被災した建築物の補修法と継続使用・恒久使用の可能性について

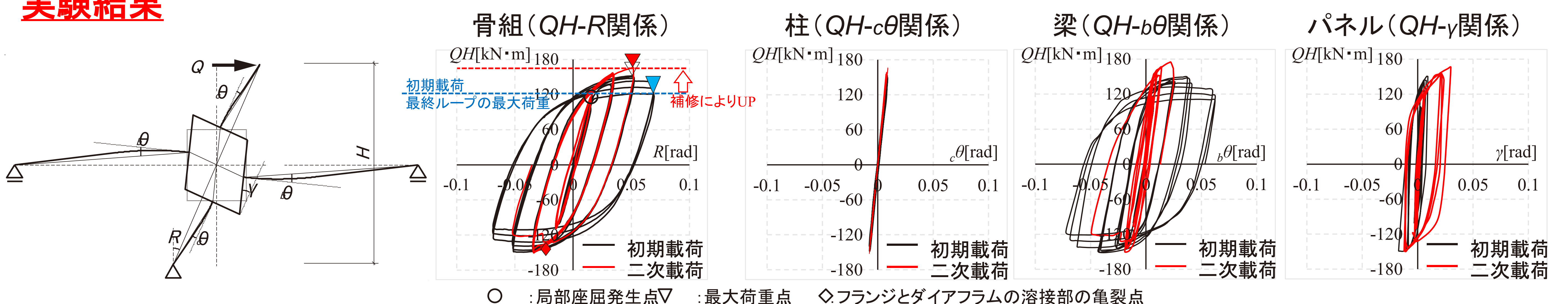


補修した鉄骨骨組の復元力特性と終局限界状態を明らかにする

実験の流れ



実験結果



結び

- 被補修部材の耐力は元より上昇するため、元の崩壊モードと異なる崩壊モードに変化する可能性がある。
- 骨組を補修する際、補修する部材と周辺部材の耐力比を考慮し、適切な補修計画の立案が必要である。